

研究・調査報告書

報告書番号	担当
30	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
<p>Wine drinking and risk of non-Hodgkin's lymphoma among men in the United States: A population-based case-control study アメリカ男性におけるワイン飲用と非ホジキン性リンパ腫:一般住民を対象とした症例対照研究</p>	
執筆者	
Nathaniel C Briggs, Robert S Levine, Linda D Bobo, et al.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
American Journal of Epidemiology 156:454-462, 2002.	
キーワード	
飲酒、アルコール飲料、疫学要因、リンパ腫、非ホジキン性、予防医学、公衆衛生、危険因子、ワイン	
要 旨	
<p>ワイン消費と非ホジキン性リンパ腫の関連が、癌登録データを用いて検討された。症例は、960例の男性、年齢32-60歳で、1984-1988年の間に8つの癌登録地域で非ホジキン性リンパ腫と診断されたものである。対照はランダムに電話番号簿より選択した、1717例の男性で、年齢、地域を合わせたものである。ロジスティック回帰分析により、年齢、登録地域、人種と民族、教育程度および喫煙習慣を考慮に入れてオッズ比を計算した。その結果、ワインを1日当たり、1杯より少なく飲む人、一杯ないしはそれ以上飲む人の比ホジキン性リンパ腫罹患危険度のオッズ比は、非飲酒者に比してそれぞれ0.8および0.4であった。16歳以下からワインを飲用しているものは、1日1杯未満ではオッズ比は0.4、1杯およびそれ以上のものでは0.3であった。ワイン以外のアルコール飲料であるビールやスピリッツ類ではそのような関連は認められなかった。ワインの飲用は非ホジキン性リンパ腫のリスクを軽減すると考えられた。</p>	